

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	長崎県指定 第4271501050号
法人名	有限会社 安富鉄工
事業所名	グループホーム えびらお
所在地	長崎県北松浦郡江迎町栗越免源八801-2 (電 話) 0956-66-2660
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成19年10月24日

【情報提供票より】 (平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤9人, 非常勤2人, 常勤換算7.0人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1 ~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 200 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (4月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性 6 名	女性 11 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名
要介護3	6 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.8 歳	最低 71 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北松中央病院・棚橋歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

落ち着いた雰囲気の中でゆったりと日々を過ごされている雰囲気のグループホームである。
外部評価の実施に際して、自己評価を真剣に取り組み、また、前回の外部評価についての改善を積極的に取り組んでおり、グループホームの質の向上にむけて前向きに考えている。
建物は、見晴らしのいい高台に位置し自然に囲まれおり、庭にも季節の花が多く咲き、四季を身近に感じることができる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の評価に対し、改善計画シートを作成され積極的に業務の改善に取り組んでいる。わかりやすい理念への変更や、地区会への入会により地域との交流を深めたり、えびらお便りを発行しホームの暮らしへの理解を得たりと、サービスの向上にむけて努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価は職員の考えをもとに、管理者がまとめる形で作成され、全員で取り組んでいる。日々の業務を振り返る良い機会となった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回は開催をしており、10月で既に3回の開催をしている。運営推進会議により、地区会への入会が実現したり、避難訓練の参加を地区の方へ呼びかけることができた。会議を通じて地域へのグループホームの理解が深まっていることが実感できる。また、江迎町役場への訪問回数を多くすることにより関係を深める努力をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	利用者の日常の生活や健康状態は面会時に話をしており、毎月、請求書と一緒に金銭管理報告書・えびらお便りを送っている。8月に家族会を兼ねた食事会を実施した際には楽しく過ごすことができた。面会時や電話の際に希望や苦情を家族等へ尋ねるようにしている。入浴回数について希望があったので、希望に添うように実施している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	8月より地域で結成している栗越区に入会をし、地域の行事に参加するようになった。更に、家族会・食事会や防災訓練にも地区の方が参加しており交流が深まっている。今後は敬老会や忘年会等の地域の行事にも参加していきたい。また、近所の方が季節の花や野菜を届けてくれるなどの交流もある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今まで掲げていた理念がわかりにくい表現だったことと、グループホームの基本方針が制度改正により地域との密着性が重視されるようになったため見直しを行った。運営推進会議で地域区長や家族の同意を得て、職員会議でも話し合い、みんなが納得し、共感する理念となった。「笑顔で 楽しく ゆっくりと」		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	笑顔でやさしい言葉遣いを心がけている。また、早出・日勤・遅出・夜勤の日常業務の分担を明確にすることにより、時間に余裕ができ、今まで以上に利用者と一緒に時間が過ごせるようになり、理念の「笑顔で 楽しく ゆっくりと」を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	8月より地域で結成している栗越区に入会をし、地域の行事に参加するようになった。更に、家族会・食事会や防災訓練にも地区の方が参加されており交流が深まっている。また、近所の方が季節の花や野菜を届けてくれるなどの交流もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員の考えをもとに、管理者がまとめる形で作成し、全員で取り組んでいる。前回の外部評価の結果に対し改善計画シートを作成し、理念の変更や地区会への入会、えびらお便りの発行等、積極的に業務の改善に取り組んでいる。		

グループホームえびらお

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。運営推進会議の開催により、地区会への入会が実現したり、避難訓練の参加を地区の方へ呼びかけることができた。会議を通じて地域へのグループホームの理解が深まってきている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	江迎町役場に最低月2回は訪問しており、えびらお便りや写真を持参して、グループホームの説明を行っている。制度について解釈の仕方を質問したりと相談することで関係を深める努力をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常の生活や健康状態は面会時に話しをしている。毎月、請求書と一緒に金銭管理報告書・えびらお便りを送り様子を伝えている。8月に家族会を兼ねた食事会を実施してふれあいの機会をつくっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置しているが投函がないので、面会時や電話の際に家族等へ尋ねるようにしている。また、運営推進会議に家族に参加してもらい意見を求めている。入浴回数について希望があったので、毎日の入浴を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員を採用した時には、2人で行動するようにして仕事の仕方や注意事項についての説明をしている。退職する際に利用者や家族への報告は行われていない。	○	グループホームは利用者が馴染みの職員と関係をつくりながら生活をしているので、職員が退職する場合の利用者のダメージを最小にするための取り組みを期待する。

グループホームえびらお

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験に応じて資格取得を積極的に推進している。介護福祉士・ケアマネージャー等様々な資格を持つ職員がグループホームに多くおり、職員の質の高さがうかがえる。また、研修にも機会に応じて参加するように努力されている。しかし、研修の報告が管理者へ口頭での説明だけであった。	○	研修の報告が管理者へ口頭での説明であり、研修内容が個人の能力アップにつながっても、グループホーム全体の業務の質の向上とならないので、研修内容についての勉強会の実施を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	江迎町はグループホーム連絡協議会等の同業者との交流の場がなく、ネットワークづくりが難しい状況にある。しかし、介護支援専門員の勉強会があり、管理者が出席して他の施設との情報交換を行っている。	○	グループホーム特有の問題解消や緊急時の連携をスムーズにするなど、交流を強化することは地域全体のサービス水準向上につながると期待できる。 運営推進会議に江迎町役場職員が参加しているので相談することを期待する。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の相談から入居まで、短い期間でなされている。家庭等の状況で入居が急がれる場合が多く、利用者と馴染みの関係をつくる前に入居となっている現状がある。	○	これからの毎日をグループホームで過ごす利用者の視点に立ち、見学や体験入所等で他の利用者や職員と馴染みの関係をつくってからの入居を期待する。やむを得ず、すぐに入居となった場合には、家族等に頼ってもらうようにして安心し納得してもらう取り組みを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人や家族等から話を聞き、希望やこれまでの生活を把握するようにしている。畑の手入れをしてもらったり、お花をいけてもらったり、洗濯物をたたんでもらったりと、一方的に介護される状態にしないよう心がけている。		

グループホームえびらお

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人や家族等から話しを聞き把握に努めている。お墓やお寺へのお参りの希望が多く、出来る限り行くようにしている。また、意向の把握が困難な方には、まず、基本的な生活(食事・お風呂・健康)を快適に過ごしてもらうように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、入所して1ヶ月、利用者の様子や話を十分に伺った上で家族の希望も取り入れ、職員間でも意見交換しながら「サービス計画書」「個別援助計画書」の作成を行い、その内容も具体的なものであった。又、作成後に家族に確認、説明もしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは短期・長期の欄はあるが一定期間(6ヶ月)で見直しをしている。見直しの内容については、職員で意見を交換し、家族の面会時、現状説明を行って承認をもらっているが、家族からの要望等は、あまり出てこない。	○	安定している利用者の場合でも、6ヶ月ごとの見直しでは、変化の兆しに対応し予防することが難しいため、もう少し短期間での見直しが期待される。また、介護計画についての家族からの要望を引き出すため、利用者の情報や現状を更に収集し具体的なものにしていくことで意見の言い易い計画になっていくと思われる。引き続きの取り組みを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人や家族の状況や要望に応じて他の医療機関への通院や送迎、また、墓参りなど必要な支援については柔軟に対応し、利用者が満足してもらえるよう努めている。		

グループホームえびらお


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別の利用者の、かかりつけ医を大切にし、協力医療機関に変更しないで管理者自らが、すべての利用者の通院支援を行っており、それぞれの、かかりつけ医とのコミュニケーションを大切にしている。また健診についても、定期的に行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については今後避けられない問題で、職員の指導の必要性を感じられているが、利用者全員についての、かかりつけ医を含めた家族との話し合いや意思確認書は、まだ交わしていない現状である。	○	利用者の中には、今後ターミナルケアが必要になってくる方もいる為、できるだけ早い段階でグループホームとしての方針を決め、かかりつけ医や家族との意思確認書を作成し、全員で共有することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者のプライバシーへの心配りは、食事中等、職員の言葉かけや、接し方で十分配慮されていることが確認できた。また職員間でも日頃から話し合いをし、意識の向上が図られていた。また、えびらおだよりに掲載する写真については、家族より口頭で同意をもらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自ら希望を言う利用者は少ないが、季節や好みに合わせて声かけを心がけ、食事の時間を個々の生活のペースに合わせてたり、グループホームの周りの広い敷地に季節の花々を植え、戸外の日光浴等を行ったりと、ゆっくりとした一日を利用者のペースで過ごせる工夫をしている。		

グループホームえびらお

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に育てた自家菜園でできた野菜を食事に取り入れて食事を楽しむようにしている。 重度者が多く、食事介護が必要な方がほとんどなので、職員と利用者が一緒にテーブルを囲み食事することはなされていない。	○	利用者が食事終了後、職員全員が食事をするというパターンができており、それが日々の介護をスムーズにさせているため継続しているが、職員が利用者と共と同じものを味わい食事を楽しみ会話を広げるというグループホームの利点を活かせる工夫を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、利用者の希望に応じて毎日、入浴できる体制が整っている。重度の方でも安心して入浴できるように入浴用の専用チェアを備え付け、入浴の不安を取り除き、楽しめるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かして、自家菜園の農作業や、収穫作業、収穫した野菜類の皮むき、また、洗濯物たたみ、花の世話等、自然に楽しみながら役割ができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺は山々に囲まれ、敷地内は十分に散歩できる広さがある。利用者の希望を聞いて、天候等考慮したうえで、日光浴を兼ねた散歩を日常的にしている。また、買い物希望する方には、職員が外出の時、声をかけ、車で戸外に出かけられる支援を行っている。歩行が困難な利用者も車椅子を利用して外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	役場や家族からの理解を得ているが、玄関の壁に自動ドアのスイッチがあり、それを押さないと戸外には出られない。利用者の外出の傾向についてスイッチで把握する場面もあった。	○	建物の側に道路がある為、安全面での配慮で実施しているが、玄関をでたら庭があり、道路までは少し距離はある。日中は職員の見守りを強化し、再度、職員間で鍵をかけることの弊害を話し合い、スイッチを利用しない工夫を期待する。

グループホームえびらお

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	いち早くスプリンクラーを設置されており、誰もがすぐ対応できる通報マニュアルや、緊急時すぐに持参できる個人ファイルを電話の側に備え付け、職員全員に周知徹底されている。避難訓練は年2回行われ、近隣の協力が得られるよう日頃から働きかけを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に栄養士がおり、個々の食事について栄養バランスの管理がなされている。また摂取状況も、食事、水分ともチェック表に記入をされており、職員間で情報共有がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには、季節の花が生けられ、日当たりや風通しも良い造りである。壁には貼り絵や写真等、利用者の日々の暮らしが伺えるものが飾られ、居心地がよく暖かい雰囲気作りに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族と相談の上で馴染みの家具や家族の写真、飾りの品等が持参されており、いずれの部屋も、トイレと洗面台が設置されており、利用者がそれぞれが安心して過ごせるように配慮されている。		

※  は、重点項目。